

例①

「医薬品の安全使用のための業務手順書」（日本病院薬剤師会）において、投薬時、特に注意が必要な医薬品（ハイリスク薬）とされているものについて、異なる薬効のもの4つ（薬品名）を示し、ハイリスクとされた理由を示せ。

例②

フェノバルビタールを大量に服用して、昏睡状態で救急入院した患者の血漿中濃度依頼があった。服用してから最初の採血までの時間は約8時間で、その血漿中濃度は $240\mu\text{g/mL}$ であった。初回の採血から24時間、48時間（3回目）後の血漿中濃度はそれぞれ $220\mu\text{g/mL}$ 、 $175\mu\text{g/mL}$ であった。3回目の測定依頼時に、医師から「患者の目が覚めるのはいつ頃になるか分かりますか？」との質問があった。患者の覚醒は3回目の採血から何時間後と推測されるか。以下の値を用いて計算せよ。

例③

下記の薬剤は、1カ月後に人工股関節骨頭置換術の手術を予定する患者の常用薬のリストである。手術前に薬剤師として実行すべき事項を記せ。

シベノール錠 100mg （シベンゾリンコハク酸塩）

バイアスピリン錠 100mg （アスピリン）

ワーファリン錠 0.5mg （ワルファリンカリウム）

パリエット錠 10mg （ラベプラゾールナトリウム）

ロンゲス錠 10mg （リシノプリル水和物）

例④

以下の所見から推測される疾患名、およびその代表的な治療薬（名称）、そして患者への服薬指導の内容について記せ。

28歳の男性。空腹時に上腹部痛が出現し来院した。数年前から同様の症状が出現していたが、市販薬を服用し様子を見ていた。体重減少は見られない。右上腹部に圧痛を認める。便潜血反応は（±）、血液所見と血清生化学所見には異常を認めない。

迅速ウレアーゼ試験：陽性

十二指腸前球の内視鏡検査画像

